

第3回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：令和2年8月11日（火）午後6時30分～8時55分

場所：市役所保健相談センター研修室

日程

1. 開 会
2. 境港市民活動推進補助金審査
3. 今期の取組テーマについての協議
4. 閉 会

出席者（敬称略）

（委員）

遠藤恵子 松本幸永 松本信子 渡邊冬樹 井上竜輔 遠藤緑
松田真二 幸野靖子 池淵一 吉田明広

（事務局）

築谷俊三（総務部長） 沼倉加奈子（地域振興課長）
北野瑞拓（地域振興課主査兼企画係長） 渡部大樹（地域振興課企画係主任）

欠席者（敬称略）

畑本愛

傍聴者

なし

1. 開会

（会長）

皆さん、こんばんは。お疲れのところ、お集まりいただき、ありがとうございます。これより令和2年第3回目のみんなでまちづくり推進会議を開催いたします。本日は、畑本委員が欠席です。

さて、ご案内させていただいたように、先に市民活動推進補助金の審査をして、その後、午後7時50分ごろより、今期の取組テーマについて協議したいと思います。早速ですが、市民活動推進補助金の審査に移りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

（事務局）

本年、3回目の募集をしましたところ、一般事業に1団体の申請がありました。審査員の皆様には、事前に書類審査をしていただいております。お忙しい中、ありがとうございました。

事前審査による申請団体の評価点は、お手元の資料のとおりとなりましたので、ご確認ください。1名分まだいただいておりますけれども、この後のプレゼンの後に、点数をつけていただいで出していだこうと思っております。

今のところ審査表の審査基準を基に、申請書のみでの審査をしていただきましたので、この後行われるプレゼン後に得点修正があればそこで修正していただき、審議をしていただきます。

それでは、本日の審査会の進め方について説明いたします。ヒアリング審査員3名と地域振興課長の計4名でヒアリング審査を行います。ヒアリング審査員3名については、あらかじめ事務局の方で、決めさせていただきました委員の方をお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

※委員異議なし

続きまして、ヒアリング審査の仕方を説明いたします。最初の3分間で申請団体から申請概要説明をしていただきます。その後、残りの17分間でヒアリング審査員の方に質疑をしていただきます。質疑にあたっては、委員の皆さままでどのような質問をするか、また誰がどの質問をするかという打ち合わせをする時間を設けたいと思います。一応、お手元の「審査表集計結果」には、事務局の方で、仮という形で審査員の名前を質問の横に記載しておりますけれども、誰が質問をするかというところは改めて話していただけたらと思います。

質疑にあたっては、ご自身で考えられた質問のみならず、皆さまの意見を委員の代表として述べていただくようお願いいたします。なお、質疑の間、ヒアリング審査員以外の方には、傍聴をしていただきますようお願いいたします。

プレゼン終了後に皆様で審議していただきます。そこで、事前にご記入いただいた審査表の得点とプレゼンを参考にしながら採択・不採択の決定を行っていただきます。各事業とも30点満点で、6割の18点が採択の基準点となっております。

以上で説明は終わりますが、何かご質問等ございますでしょうか。無いようでしたら、審査内容の打ち合わせを行いたいと思います。

※委員質問なし

<打ち合わせ>

- ①ヒアリング審査員のうち、誰がどの質問をするか振り分け
- ②質問の意図を確認

<申請団体によるプレゼンテーションの開始>

◇1団体目 境港サーフレスキューチーム

・申請事業 市内の水辺における安全活動

・事業内容 監視・救助活動及び海岸の清掃活動や、「浮いて待て」教室の実施により、防災・自助意識の向上を促す。

(委員)

昨年の活動実績や本事業の成果を教えてくださいたいのですが、参加人数とか事故件数や救助件数を教えてくださいませんか。

(境港サーフレスキューチーム)

昨年、小学校の夏休み開始からお盆の時期にかけての週末の10日間、大体朝の10時から夕方16時まで監視活動を実施しております。海水浴者が延べ2,240名おり、監視者が延べ22名出ております。この10日間で幸いにも事故等は起こりませんでしたけども、強い風によって浮き輪が沖に流されたということが2回ほどありました。その際には、救助用のボードみたいなものがあるのですが、監視者がそれを使って沖合まで出て、浮き輪を回収しています。また、小型ボートで出港しようとしてすぐ転覆してしまったという事案がありまして、救助というか手助けを行いました。それから、海水浴客の方が車の鍵を紛失した事案が1件ありまして、その男性からの要請でJAFに連絡したというのがありました。

また、「浮いて待て」教室という児童に対する安全指導教室ですが昨年6月29日から9月14日まで、境港市の小学校に延べ7回出前教室を行いまして、児童延べ約300名に安全指導を行っております。また、米子市の小学校にも延べ7回出前教室を行いまして、延べ約300名に安全指導を行っております。

(委員)

海のことだけでなく、鍵のことまでやって大変ですね。

(境港サーフレスキューチーム)

救助活動については慣れた人間がいますので、大丈夫です。自分たちが無理をしない範囲で活動しています。

(委員)

活動を通して、苦勞しているところとか、市に対して、こういったことをしてほしいなど何か要望したいことはありますか。

(境港サーフレスキューチーム)

最終的な目標は、境港には海水浴場がないので、それを作りたいという思いがあります。海水浴場と言いますと、県の方で条件がありまして、エリアを決めた上で、監視員をつけて、シャワーだとかトイレといった設備が整った上で、海水浴場として認められるのですが、監視員の数ですとか、なかなかここがクリアにならないです。あと、大分綺麗になっていますけど、水質など、様々な条件がありまして、監視員の人数も増えて、市民の方が安心して泳げるようなところになれば良いというのが最終的な目標で、市の方をお願いするというのは少し違うかもしれませんが、昨年、レスキューボードのようなものや日除け用のテントで

すとか椅子やら机やら、補助金で購入させていただきましたが、海まで搬送するのが大変なところですので、あるところでは、コンテナを設置して、コンテナごと移動しているというのも聞きますので、装備的なところはまだ苦勞しているところです。

(委員)

「浮いて待て」教室の本年度の予定は。

(境港サーフレスキューチーム)

7月14日に上道小学校の5・6年生90名に指導しました。また、7月17日に境小学校2年生・4年生・6年生120名に指導しました。

(委員)

すべての小学校に巡回するような形ですか。

(境港サーフレスキューチーム)

声掛けはしているのですが、去年は3校です。

(委員)

巡回ではなく、声掛けして要望があったところに出向くという形ですか。

(境港サーフレスキューチーム)

声掛けをして、学校からの要望があって、ですね。授業のスケジュールの問題もあり、今年にはさらにコロナの影響で要望が少なかったかなど。また、生徒が海で遊ぶ夏休みの前にやるのが一番良いのですが、プールが濁るんじゃないかと思われる学校もありまして、プール納めでやってくださいというところも多いです。9月の頭にいくつか要望が出てくるかなと思っております。

(委員)

全然やったことがないところもありますか。

(境港サーフレスキューチーム)

チームができる前から個人的に活動をしているメンバーもおりますが、境港全校ではやっていませんね。

(委員)

できればしてほしいですね。3方が海に囲まれているところなのに、何かあった場合には、子どもたちも対処できるようにしたいですね。中学校からの要望はありませんか。

(境港サーフレスキューチーム)

ないですね。昨年は、保育園からはありました。

(委員)

会自体に、入会によるメリットがありますか。

(境港サーフレスキューチーム)

警察・消防・海上保安庁といった公務員のメンバーが多いので、純粹に水辺の安全のため、事故を減らしたいという思いでやっています。メリットというのわかりませんが、私が監視活動をしていた際に、子連れのお母さんから「いつもありがとうございます」とご丁寧にお礼をいただきまして、そのときはやっていて良かったなど実感が湧きまして、無事故ですと達成感もあります。

(委員)

その関係でもありますが、会員が18名と少ない人数でやっておられて、会員増加のための広報活動ですとか、継続して活動するためにやっておられることがあれば教えてください。

(境港サーフレスキューチーム)

昨年のこの会の中で、メンバーを増やしたいとご相談をさせていただいて、境港市の市報に団体紹介をさせていただきました。あとは SNS 等で活動内容を広報させていただいておりまして、その中で会員募集をしております。

(委員)

昨年は218,000円の補助金をもらって、機材費が主だったと思いますが、今年はAEDのレンタル代がほとんどで、42,000円の申請しかなかったというのは、会が縮小しているのではないかと思ったのですが、どうでしょうか。

(境港サーフレスキューチーム)

会員数自体は増えておりまして、金額が減ったのはレスキューボードが非常に高額で200,000円以上するものだったからです。10年以上使えますので、今年はそれを使っており、会が縮小したわけではありません。今年は昨年に増強する形でAED代を計上させていただいた次第です。

(委員)

今の市長は「海で遊ぼう」と言っておりますので、ぜひ海水浴ができるようになればと思います。

(境港サーフレスキューチーム)

ありがとうございます。

(委員)

今後の活動を続けるにあたり、主に資金の面でどのようにお考えでしょうか。

(境港サーフレスキューチーム)

活動費のほとんどが会員の会費となっております。去年は、積極的に協賛金をお願いしまして、結果的に補助金と合わせて、プラス 600 円くらいの予算の使い方になりました。今年はコロナの影響から、お願いするということは難しいと考え、会費と補助金が通れば、トントンくらいになるかなと考えています。お金があるにこしたことはないのですが、立場的にも営利事業はやりにくいところもございまして、正直なところ、悩んでいます。

(委員)

海水浴場ではないということの周知ということも必要かと思いますが、先ほどの話で感謝もされているということで、やはり大切な活動だと思います。

(境港サーフレスキューチーム)

ありがとうございます。

(地域振興課長)

今年は、海辺の安全対策だけでなく、感染症の対策も必要だったかと思います。海辺という点では、熱中症対策も必要だったかと思いますが、いかがですか。

(境港サーフレスキューチーム)

熱中症対策については、基本的なことですが、直射日光を避けることと水分補給をしっかり行うということ、また、ある時は海に入ってクーリングをするということで、チームとしてというわけではないですが、各自熱中症対策は心得ておりますし、感染症対策についても消防職員も多いので、しっかりやっております。物品としても、マスク・ゴム手袋・消毒液を揃えまして、対人への対処も備えております。

(地域振興課長)

小学校での「浮いて待て」教室の際はどうですか。

(境港サーフレスキューチーム)

小学校と連携を取りながら実施しているところです。

(地域振興課長)

実際の今年度の活動としてはいつからいつまでですか。

(境港サーフレスキューチーム)

7月23日から実施しており、海の監視活動については終了しました。学校での「浮いて待て」教室については要望があれば続けていき、9月上旬ごろまで行う予定です。

(地域振興課長)

昨年、購入されたレスキューボード等の備品はどのように管理されていますか。

(境港サーフレスキューチーム)

会員の自宅にて直射日光や雨風を防げるように保管しています。

(地域振興課長)

分かりました。ありがとうございました。

<プレゼンテーション終了>

(会長)

それでは審議に入りたいと思います。みなさんプレゼンをお聞きになりまして感じたことなどがあれば発言していただけたらと思います。(以下、非公開)

(会長)

それではこの事業については、採択としたいと思いますが、いかがでしょうか。

※委員異議なし、非公開終了

それでは、申請団体に対して採択の通知をお願いします。

以上で、市民活動推進補助金の審査を終了します。

<審査会終了>

3. 今期の取組テーマについて

(会長)

それでは、再開します。これより今期の取組テーマについて、話していきます。

7月20日のワークショップ、皆さまお疲れ様でした。ここでテーマが決まったわけですが、今日のところは、時間の都合上、前回の振り返りや今後のスケジュールなどから、今後、こうしていったらいいのではないかと、というような意見を皆さんからざっくばらんに聞けたらと考えています。

事務局から資料の説明をお願いします。

(事務局)

それでは、まず初めに、簡単に前回の振り返りをしたいと思います。

資料1をご覧ください。

前回、ワークショップをして、最後に「こんなテーマはどう？」ということで発表もしてもらいました。①～⑤として書いていますが、まとめると、情報発信に力を入れるということだろうと、それは境港市のまだ知られていないこともそうですし、境港にいても外の情報にアクセスできる環境づくりをして、それをアピールするということがあったかと思いません。

毎熊先生からはメールで、第6期との対比としてテーマタイトルを「住み続けたいくなるまちづくり」にしてはどうかという話もありました。

そういったことが前回の話ですが、その下に今後の進め方について書いております。今後、こういったことを決めないとな、整理しないとなということを羅列しております。まずは、テーマタイトルですね、それから、境港市の情報発信にはどのようなものがあるのか、また、市以外ではだれが情報発信しているのか、これはこのあと説明します。また、情報発信が足りないといっても、何が足りていないのか、どういう場面で足りていないのか、また、それらの課題をどうやって情報収集するのか。それから、『情報発信』と『外の魅力を味わえること』は少し内容が異なる？と書いていますが、外の魅力を味わえることというのは情報発信する内容の一部ですので、「情報発信」と並列に扱うのはどうなのかなというところもあります。また、毎熊先生からもですね、「外の魅力を境港でも味わえる、というのは大事な視点ですが、魅力自体は外にあるので、それ自体はさほど広がらない気がします。したがって、どうすれば味わえるかを考察するのは勿論ですが、単に外の魅力だけではなく、うちの魅力も含めて情報のコンテンツを検討するのがよいと思います。」とご意見いただいております。ここも一度整理しないとイケないかと思えます。

続いて、改めて今年度のスケジュールについてお話しします。資料2をご覧ください。

7月20日に「ウィズ・コロナ時代のまちづくり」と題して協議しました。これで大体のテーマが決まったところです。それで、今日の会議があり、10月にもう1回審査があり、例年どおりですとこれで今年終了となり、来年の1回目を3月にやるということになります。

最後に、資料3として、境港市の情報発信についてまとめております。

まず、市が情報発信する手段は以下のようなものがあります。

市報、市ホームページ/市SNS (Facebook、Twitter)、掲示 (公民会等)、掲示というのは会議の案内や制度のチラシなどを公民館に貼っているというものです。この会議が開催される際も、市のホームページと市役所玄関や公民館での掲示をしています。このほか、細かいところでは、保育園・小中学校へのチラシ配布ですとか、マスコミへのプレスリリース、県外の観光イベント参加や全国紙への掲載なんかもまれにあります。防災関係に限って言

えば、防災無線と実施主体は県ですが、安心トリピーメールで境港エリアの情報を発信しています。

次に、情報発信の種類ですが、市政全般で、主に市が実施主体となっているものがメインです。市報の表紙・フォトニュースは市が主体でない地域のイベント等も取り上げています。

最後に、市以外の情報発信の担い手としては、観光関係は境港市観光協会、経営者向けの情報は境港市商工会議所、新聞社・テレビ、地域情報誌、地域情報サイトなどがあります。地域情報誌というのは、ラズダですとか、ポスティングされているフリーペーパーとかのことを指していて、境港に新しくできた店の情報など載っていることがあります。ただ、境港市だけに特化した情報誌はないと思います。地域情報サイトは、地域情報誌のインターネット版ですが、こちら「鳥取マガジン」ですとか「とっとりずむ」といった鳥取県の地域情報について報じるものはありますが、境港市だけに特化したものはないと思われます。

説明は以上になります。

(会長)

それでは、事務局から説明を受けましたが次回以降の進め方を決めるために皆さまから意見を伺うということになります。皆さまのほうで、前回の会議で気づいたことですか、今後のスケジュールや、協議の内容についてこうしたらどうか、こういうことが知りたいといったご意見があればお聞かせください。

(委員)

資料を今日この場でいただきましたけども、事前にいただかないとこの内容について検討することはできないですよ。補助金の資料と一緒にもらわないと、なかなか意見も出ないですよ。この資料はいつ作ったのですか。

(事務局)

2週間ほど前です。

(委員)

できれば事前にいただければ、みんな考えておくと思いますし、真っ当な意見交換ができると思いますので。

(事務局)

次回から補助金審査の資料と同じタイミングで送付させていただきます。

(委員)

ですから、私は初回にいただいた第7期の取組テーマの例について、一生懸命考えてきていたんです。でも、全然関係ないということですね。自分なりに色々考えてはいたんですよ。

(地域振興課長)

7月20日にワークショップをさせていただいて、「情報発信」をどうしていくかというところを大体みなさんの方向性は決まっていたんですけど、じゃあ具体的にどうするかというところまではできていないんですね。ですので、資料はお渡しできていませんでしたけど、この前の続きをしようという形です。

(委員)

資料はまとめてあるだけですよ。別に今日この場でも。

(地域振興課長)

「あのときあんな話があったけど」という感想でも、その先のことでもお話いただけたらと思います。資料が遅かったのはごめんなさいという一言です。資料はなきものとして話していただいても結構です。その中で、初回にお示しした第7期のテーマ案の中から、やはりこんなことが大事じゃないのということがあれば、そこに戻っても良いと思いますし、2個しようかということでも良いと思います。

(委員)

自分なりに市役所のホームページからダウンロードして見てみたんです。「境港市まちづくり総合プラン」。いただいた冊子ではなくて、35ページある方です。これを見て驚いたんですけど、市役所がやっていることが全部書いてあります。これ1回読んだ方が良いなと思います。それで、市役所が自分で評価までしている。

(地域振興課長)

ありがとうございます。委員が仰られた「境港市まちづくり総合プラン」というのが境港市の総合計画で、これから先の5か年この目標に向けてこんなことをしていきますということが書いてあります。そして、これが平成32年度までになるので、今年度中に作り直しをして、来年度からその先5年間どういう事業をしていくかというところを考えていきます。

(委員)

情報発信についてもこの中に既に色々書かれてはいるんですよ。

(地域振興課長)

「ここが足りない」ということもあるかもしれません。

(委員)

ですので、読んだ方が良いですよ。難しい言葉で書かれてもいませんし、非常に詳しく書

いてあります。

(委員)

ちなみに、情報発信のことについては何と書いてあるんでしょうか。

(地域振興課長)

「市民に分かりやすい情報提供と広聴」というところですね。

(委員)

それから、一つ驚いたのが、みんなでまちづくり条例施行規則の中に、「政策提案書」という様式があって、こんな書類があることを知りませんでした。これまで「市民の声提案箱」に一生懸命書いてきましたけど、これがあることを知っていれば、これに書いて正式文書として出していました。これがあることもみんな知らないと思います。「みんなでまちづくり条例」自体知らないんじゃないでしょうか。初回の資料でもらってるとは思いますが。

(委員)

境港市で広報をするときはどこの部署がやるのでしょうか。

他の市町村だと市長に近いところに広報課というのがあったりして、迅速に情報発信したりしていますし、中小企業でも社長に近い人が積極的にブランディングや広報をしたりしますが。

(地域振興課長)

仰られるように、秘書広報という形で市長に近いところで広報をするところもありますが、境港市の場合、この地域振興課の中に広報情報係という別の係がありまして市報の作成とホームページの管理をしています。市報の作成については、各担当課の方から「これを何月号に載せてほしい」という掲載依頼をもらってそれを編集するということをしています。その中には、定期的にお知らせするものもあれば、水木しげるロードリニューアルや(仮称)境港市交流センターの進捗状況といった大きな施策の実施報告というものもあります。今は議会は、議会だよりを作っておられますので、議員の質問についてはそちらをご覧ください。ただ、市報が議会冒頭で報告される所信表明・市政方針・市政概要といったことは、必ず載せるようにしています。

(委員)

ちなみに、先日放送されたまちづくりのテレビなんかはどういった経緯で放送されたのでしょうか。

(地域振興課長)

テレビ局からの持ち込みで「こういう番組を作りたいので、出演してくれないか、情報提供してくれないか」という形です。

(委員)

こちらから積極的にやってはいない。

(地域振興課長)

こちらから作成を依頼すると費用がかかってしまうので。

(委員)

そうでなくて、「取材してくれないか」というのは。

(地域振興課長)

取材については、事業ごとにマスコミに情報提供をして、取材に来てもらうということは多分にあります。

ホームページについては、それぞれの担当課がタイムリーであげていくという形です。

(委員)

市報もホームページもどれだけみんな見ているのかなというのはあります。境港市に戻ってきて面白いなと思ったのが、町内放送です。あれが一番分かる。誰にでも聞こえるから、あれが一番みんなに伝わるんじゃないかなと。今は誰それがいなくなったとかばかりですが。公民館でこんなことやりますとかそんなのでも良いと思います。確か、市長と語る会を公民館でやるのでみなさんおいでくださいというのを聞いたことがありますよ。

(地域振興課長)

その前に市報でお知らせもしているんですけどね。

今はスマホの普及率も高くなってきておりますので、市報もアプリで見られるようになったりとか、紙媒体だけではなく、色んな媒体で見られるようにしています。

(委員)

境港市でイベント情報を知ろうと思ったら、境港市や観光協会のホームページよりも商工会議所のホームページが一番分かりやすいというのが問題かなと思います。

(委員)

カウンターを作っておいて、今日一日何人が見たかというのが分かると良いですね。

(委員)

先ほど、その情報を知らなかったという意見があり、それが全てだと思って、いくらホームページや市報で情報発信をしても、「知りたい」とか「こんな情報がほしい」と思わないと、その情報にアクセスしないから、SNS でも情報を発信してもまずフォローされないし、情報の発信の仕方もそうだけど、市民の意識とかどうやったら市政にもっと興味を持って、情報を得ようと思ってもらえるかというのも重要なんじゃないかと思いました。

(委員)

一番は、市長が情報発信することですよね。今回の市長選でも YouTube とかを使って情報発信していました。総合プランのこととかも市長から発信してもらえば伝わっていくかなと思います。あとは、若手の職員が SNS ですとかで同じような若い世代に発信する。そうやって、色んな世代に伝えられれば良いですね。芸能人も YouTube に力を入れていて、自然と YouTube を開く人も増えてきています。タダでできますし。編集は必要ですが、既存のメディアを使うより費用は安く済みます。今後は費用対効果も YouTube の方が良くなるのではないのでしょうか。

(委員)

「YouTube でやっています」ということを市民に知らせないと。知らなかったら見ようがないので。

(委員)

なので、YouTube で人気の方を使って、最初に話題を作っておくとか、色んなやり方でインパクトを与えることができると思います。

(委員)

テレビでも YouTube を見られますからね。

(委員)

この前の公開討論会も J C が主催で、YouTube でやったんですけど、以前は、パソコンやスマホでないと見られませんでしたけど、テレビでも見られますので、一家団欒の中で YouTube が見られる時代になっています。なので、興味がなくても家のテレビで市のことが流れていたら色んな世代が見て、伝えることができるので、そのきっかけをどう作るか。

(委員)

逆に、中海テレビや B S S とかにこちらから「こんなこと境港市やってますよ」と言えないんですか。結構マスコミって、餌をあげたら食いついてくれるじゃないですか。

(地域振興課長)

イベントごとは情報提供してますので、取材に来てくれています。

(委員)

ですので、「YouTube してますので」って言ったら、テレビでも取り上げてくれるんじゃないでしょうか。結構、夕方のニュースでも地域のことをやってるじゃないですか。餌与えたらすぐ食いついてくれますよ。

(地域振興課長)

その餌がおいしいかどうかもありますけどね。

(委員)

おいしいと思いますよ。私はやはりテレビが一番伝わると思います。

(地域振興課長)

それと何曜日にやるかもありますよね。

(委員)

夕方はみんな大体テレビ見てますよ。

(委員)

ただ市役所のテレビを見るかどうか。議員から聞いたのですが、議会の映像を中海テレビで放送していますが、誰も見ていないそうです。視聴率0%。だから、その議員は「もうやめよう」って議会で言ってるそうです。

(委員)

あれはそういう問題でなくて、見る人がいるかもしれないこと前提で開かれた議会にするためにしているものですから。

(委員)

実際0%ですから、お金もかかるからやめようって言ってるみたいです。

(委員)

おそらく、考えられるようなできることって既にやられていると思うんですよ、SNS や YouTube を使うっていうのは。だから、さっきの受け手の方が受け取っていないということは、受け取ってもらえる既存のものの使い方、その議会の中継も中学校とか高校が授業に取り入れてもらえるような形だったら、一部だけでも見てもらえると思います。それと、市

役所っていつも NHK がついてますよね。市民課のところ。そこで議会がやっているときは議
会を流すとか。

(地域振興課長)

流しているはずですよ。

(会長)

公民館でも流していたと思います。

(委員)

だから、視聴率は0ではないですよ。

(委員)

そうなんです。なので、色んなところでも流してもらえたら。

(委員)

でも、これって NHK の国会中継も同じですよ。あれも別に工夫をしてやってるわけじゃ
なくてただ流しているだけですよ。要は、興味を持つ姿勢があるかどうか。

(委員)

きっかけじゃないですかね。きっかけがないと動けないので。

(委員)

市議さんの問題もあると思いますけど。

(地域振興課長)

議会中継だけでなくほかのものも。

(委員)

市報見れば良いという話になりますもんね。

(委員)

「つなぐ」を読んでも、本当にこれだけのことしか言っていないのかなあというのはありま
す。要約してこの内容になっているんじゃないのかなあ。あの内容だったら言ってること
がものすごい希薄です。

(委員)

最初に戻っちゃうかもしれないんですけど、今期の取組のテーマということで今回まとめてもらった資料を見ていると、情報発信というところと、境港市にしながら仕事ができるようになっていうのはうまくできれば一緒にできるかもしれないけど、別なのかなと思って、例えば、「今回は皆さんの言われた情報発信について考えていきましょう」って案内いただければ、事前に考えてここに来れるようになると思います。

(会長)

環境が整うようにしていれば、境港市に住んでいけば情報も入ってくるし、発信もできるということでしたね。

そうすると、提案がありましたけど、今後のスケジュールとしましては次回に向けて、情報発信をどうしていくかというところですけど。

(委員)

一番単純なのは、ポスティング情報誌の「いかこい」ってあるじゃないですか。あれの境港版を作ってポスティングするとか。

それから「鳥取県政だより」ってありますけど、あの内容って県全体の情報がありますから、はっきり言って東部や中部の情報は関係ないんだから、西部の情報だけあれば良いですよ。だから、西部総合事務所に西部版だけ作ってくれないかって言ったんですよ。我々、東部や中部の情報なんか知ったってどうしようもないです。

(委員)

いや、めっちゃめっちゃ知りたいですよ。

(委員)

何の役に立つんだろうって。あんなところまで行かんぞって。だから、西部総合事務所に言ったんです、やめろって。西部用の専門のを作れ、東部や中部の情報ことまで見てもしようがないですもん。

(地域振興課長)

最近の県政だよりは催し物のコーナーがすごく少なくなって、催し物については市報に載せてくれと言ってきています。それで、県の魅力だとかオールマイティな人紹介が多くなってきて、情報誌みたいなものになっています。

(委員)

ちなみに、この取組のテーマというのは2年で完成させるっていう目標でやっていくんですか。それとも、今後境港がずっとこのテーマを持ちながらやっていくのか。それによっ

て、一般市民に知らせられるかも変わってくると思います。

自分なんかは若手ネギ農家の会NEXTを始めて6年目なんですけど、1年目は認知度なんてあるわけないし、ポロシャツなんかを作っていて、徐々に徐々に知ってもらって6年はかかった。これを2年間で知ってもらってというのはおそらく無理だと思います。この会をやる限りはずっと話し続けないと、一般市民の方には伝わらないんじゃないかなって思います。

(委員)

結局、まとまらない。

(委員)

それだったらやってる意味もないですし。

(委員)

それこそ鳥取マガジンって出ましたけど、あれは何年目って話です。多分、2、3年目ですよね。ものが良ければボンっていくんです。

(委員)

伝え方ですよね。

(委員)

自治会で回覧を回しても見ない人は見ないですし、自分も市報では自分が関わっているところを探します。他のところも見るは見るんですけど、閉じた瞬間に忘れちゃう。結局、情報発信しても自分が関与しているものは見るけど、興味のないものは見ない。スポ少で子どもがサッカーしてるところはサッカーのところしか見ないとかそういうところがあるので、情報発信をイノベーションするって書いていただけてますけど、何か工夫しないと、皆さん言われるように受け取ってもらえない。そこが課題かと思います。以前、若者の参加ということもテーマになっていましたが、若者が関与していれば、若い世代に受け取ってもらえるかもしれません。

(委員)

この会議も元々若い世代を入れようとしたところがあるんですよね。

(地域振興課長)

第5期のときに若者の参加というテーマで、行政だけでなく自治会だとかにも若い人の参加が少ないよねっていう課題を2年間みなさんで話し合っ、行事に引っ張り出そうとかこの委員自体も若返らせようということでガーンと平均年齢が下がったところです。

昔の委員だったら SNS なんて言葉は出てきませんよね。

やはり、年代に応じてウケる媒体も違うと思いますし、興味を持つ項目も違うでしょうし、どう振り向かせるかという方法も違うと思います。市報も高校生に書かせているところもありますし、子どもが表紙に出ていると、「うちの子が出てる」とかって手に取るとも聞きます。何で興味を引くか、一回読んでみるとこのコーナー面白いじゃないとかってなりますので、市報だけじゃなくて、SNS も含めて、どう活用するか。委員が仰るように防災無線を使うということもあるかもしれませんが、あれは防災行政無線なので何でも流せるわけじゃないみたいです。だけど、聞こえてくると「何て言っていたの」と問い合わせがくるくらい耳に残るみたいで反応は良いです。

なので、防災無線なのか中海テレビの境港チャンネルをうまく使うのか、何かをきっかけに見るようになる、聞くようになるというところもあるかもしれませんよね。

(委員)

実家にスピーカーがあるので、しょっちゅう流れてます。

(委員)

それこそ今日の日本海新聞に自分の記事が載っていましたが、誰も気づいていませんよね。

(地域振興課長)

そこに顔写真でも載っていると「出ちゃったがん〜」という風にはなりますよね。

(委員)

確認になるんですけど、いま情報発信をどうするかってことを話し合っていて、何のために情報発信をして興味を持ってもらいたいかっていうところがちょっとまだはっきりしてないのかなと思って、そこがはっきりすると情報発信のやり方も変わってくると思うので、そこがどうなのかなと思うんですけど。

(委員)

「住み続けたいくなるまちづくり」の「住み続けたいくなる」内容ってなんだろうと思っていました。情報発信するところとしては。

(委員)

住み続けたいと思ってもらえるように情報発信をするということで、その情報発信のやり方。

(委員)

何を流すかってとこですよ。

(委員)

もし、情報発信がテーマなら、何のために情報発信をするのか、そこが決まっている方が話し合いはできるかなと思います。これって今、テーマをどうしようってことですよ。

(委員)

発信の方法はその後でいいんじゃないですか。

(委員)

今期の取組テーマは「住み続けたいまちづくり」で進めていくっていう認識で良いんでしょうか。そこをはっきりさせた方がいいかなと思います。

(委員)

これだと学生の意見が中心になってくるんじゃないでしょうか。既に社会人であればここで働いて住まざるを得ないということがあります。

(会長)

高校生の意見を聞こうということですかね。

(委員)

彼らの意見が大きいんじゃないですかね。どんな街であれば住み続けたいと思うのか。

(委員)

J Cの市長選のときの公開討論会で、高校生から「遊ぶ場所がない」という意見があって、なるほどねと思いながら無理だなど。

(会長)

遊ぶ場所とか、ちょっと入るところがないとか。

(委員)

米子が衰退したのが一番大きいでしょう。昔は、米子に行けば何かがあったんだから。それならここから出て行った方がいいよってなっちゃう。

(地域振興課長)

「住み続けたいまちづくり」で若者の視点からという意見ですけど、私たちもお年を

召していく中で、どうなんでしょう。

(委員)

住まざるを得ないわけですから。

(地域振興課長)

そうですが、その中で、「住み続けたいくなる」というか「住んでいて楽しい」とか「安心して住める」とか。

(委員)

一応、前回は「U・Iターンしたくなるまちづくり」でそここの違いも出していかないといけないですね。それこそ、若者に外に出ずに住んでいてほしいのか、それともお年寄りとかも含めて暮らしやすいまちということなので、「住み続けたいくなるまちづくり」も意味が違ってくると思うんですけど、それであれば、情報発信とか以前に、どういうまちが住み続けたいですかってということになるかと思いますが、どうなんでしょうか。

(会長)

前回のウィズコロナ時代のまちづくりの中で、在宅勤務ができたらということで環境整備の話が出ましたね。どこにいても繋がれる。安心して住めるというところにも繋がってきますよね。

(地域振興課長)

住民同士の繋がりというものもありますね。

(委員)

県外の人にも来てもらいやすくなります。

(委員)

住民からしたらパティオの跡地を何かスーパー作ってくれよって話です。ダイレックスかディオに行くしかないから、あそこにできたら住みやすい。

(委員)

私の住んでいるところは、車があれば良いですけど、歩いて行ける距離に銀行も郵便局もないです。

(委員)

まずテーマを決めて、情報発信は最後で良いんじゃないですかね。土台が決まってないの

に話してもしょうがないですよ。

(委員)

情報発信しやすい題材を選んで、それをテーマにしても良いのかなと思います。

(委員)

情報発信は何でも出来るんじゃないですかね。伝え方じゃないですか。

(委員)

そこが難しいんですよ、本当に。

(委員)

みんながこれだっていう意見に、ぱっと決めてみんなで楽しくやるのが一番ですよ。

(委員)

前は人を呼び込むためにどうするかっていうことでしたので、今回は呼び込んだ人
いかに満足させるか、私たちも含めてっていうところですかね。

(委員)

やはり事前に資料がもらえてたら。

(地域振興課長)

それは本当にごめんなさい。

(委員)

遠慮しておられる部分もあるかもしれませんが、これについて考えてきてくださいって
言ってもらっとくと、それまでに考えてきたりとか、言えることもあるかもしれないと思
います。

(地域振興課長)

メールのアドレスは全員からもらっているの。

(事務局)

持っておられる方からは。全員ではないです。

(地域振興課長)

メールやら何やらを使って連絡を取りながら、資料は前もってお配りするとして、10月

の会議に向けて、毎熊先生とも協議して進めていきたいと思います。今のところ、情報発信は置いて、前回の「U・Iターンしたくなるまちづくり」を経て、来た人にもこれまで住んでいた私たちにとっても、住み続けたいくなるようなまちってどんなまちなんだろうと。で、その中には色々な情報がもらえて、情報が動いていないと、何が楽しくて、何が暮らしやすくて、何が良いのか分からない。その発信の仕方、あるいは、受け手の興味の引かせ方みたいばところなのかなというところですか。

(委員)

その辺って市の方がやってくれてるもんだと思っているんですが。

(地域振興課長)

その市がやっているつものものが足りていないから、そんな情報知らなかったとか、そうだったのっていうことが、今日に至ってるんですよ。

(委員)

市はやってますよ。

(地域振興課長)

知らない人は知らないっていう状況はありますよね。それはどこかインパクトが足りないのか、市報にしても、ここしか読まれないってところがあるのは全体のインパクトが弱いのか、色んなところを補ってあげれば、それこそ年代ごとに向けた手法もあるんじゃないかとか、そこら辺を様々な年代の様々な経験を積んでおられる皆さんから色々意見を出していただくと、施策のヒントになっていくんじゃないかなと思います。ちゃんとしなさいと言われてたらそれまでですけど。

(委員)

結局、市だけがやってもだめなんです。市民とか、団体とか企業とかみんなが連携してやらないと。千代おすびさんとか、会社としてSNSとかで情報発信しているけど、その会社の社員もみんな個人のSNSでシェアしたりとかしてます。そうすると、その友達とかもまた見たりします。会社の経営者層だけでなく、市もそういう風にして広がらせていかないといけないかなと思います。

(委員)

境港のことで検索してもあんまり引っかからないですよ。

(地域振興課長)

だから、引っかかるようにするっていうのも一つの提案なのかもしれないです。

(委員)

先週、鈴木香里武さんってテレビにもよく出られる方が来られましたけど、本当に集客が少なかったですもんね。

(地域振興課長)

PR下手で済ませてしまってはいけませんよね。

(会長)

結局、情報発信は手段ということで。

(委員)

前回のコロナの話で情報発信というのが出てきましたが、1回リセットして、テーマは別に決めたほうが良いと思います。

(会長)

どうしたら境港に来てもらえるかというのが前期で、今期は住みやすいよ、暮らしやすいよとそういうまちづくりを目指すためにどうするか。

(委員)

転入してきた人に聞くのがより具体的になるんじゃないですかね。

(会長)

前期はそれで移住者とのワークショップもしているんですよね。まとめの中でも、どんどんワークショップをやっていこうとありますし、今期もそういう方々とお話をするというのも良いかもしれないですね。

(委員)

生活費が安く済みますからね。電気、ガス、水道。出たことない人たちはそれが分からないですからね。全然違いますからね。市民の声提案箱で、水道代が京都の3倍になって驚いたという意見がありました。

(委員)

それでも安いという見方もできますけどね。

(委員)

人間が少ないから仕方ないということみたいですがけどね。

(委員)

テーマなんですけど、「住み続けたくなるまちづくり」をテーマにするなら、それぞれに住み続けたいまちのイメージがばらばらで、そこが良いと思うので、前期もいた方は移住者の方や高校生と話したことも踏まえた上で、「住み続けたいってこういう意味で議論しませんか」っていうのをみなさんがそれぞれ持ち寄って話せたら、テーマとして確立というか、ちゃんと決まるんじゃないかと思います。

(委員)

賛成です。

(委員)

住み続けたいって思うポイントがみんな違うので、新しい意見をどんどん取り入れていて、その中で市として、このポイントに力を入れるというのを決める。

(会長)

それでは、そういう方向で。事務局はまたまとめていただければ。

(事務局)

また、やり方はいろいろ考えてみたいと思います。10月は補助金の募集もありますので、申請があれば、またご協力をお願いします。

(地域振興課長)

仮称ですけど、「住み続けたくなるまちづくり」で良いですかね。なぜ住み続けるのか、なぜ住み続けたいのかというところを箇条書きで書いてもらうとかして、絶対今度は先にお渡しさせていただきます。

(会長)

では、今日はざっくばらんにということでしたが、何となく方向性がまとまってまいりました。

また、アドバイザーや事務局とも相談しながら、次回以降の内容について決めていきたいと思います。

では、以上をもちまして、第3回のみんなでまちづくり推進会議を終了します。委員の皆様、ありがとうございました。

<閉会>